

3.1 1 東日本大災害で学んだこと

■出来たこと

- (1) 支援物資の受取・仕分け・配布
- (2) 宮城県と県社協・本会との連携
- (3) 津浪被災者労力支援
- (4) 新人材の確保
- (5) 防災・避難所訓練等を経験していた地域は、避難所運営等がスムーズ
- (6) 活動拠点の設置
- (7) ボランティアの受入とコーディネータ
- (8) 被災者自立復興支援（継続中）
- (9) 支援金の確保

■出来なかったこと

- (1) 県災害ボランティアセンターの共同運営
- (2) 市町村の災害ボランティアセンター運営支援
- (3) 初期活動拠点の設置 ⇒ 事務所の建物が、立ち入り禁止
- (4) 初期の人材確保 ⇒ メンバーが被災。緊急要員として
- (5) 組織的活動 ⇒ 団体会員の自主活動が先行
- (6) 活動メンバー間の連携不足
- (7) 初期の活動資金確保 ⇒ 緊急時の対応資金の蓄え無し
- (8) 初期の情報収集・発信 ⇒ 人材不足
- (9) 会員間の連携 ⇒ 活動混乱で情報不足、資金不足等で会員への連絡ができず
- (10) 災害ボランティア団体のコーディネータが不十分
- (11) 個人ボランティアの相談・コーディネータが不十分

■学んだこと

- (1) 「災害への備え」に対する特にソフト面の無関心への教訓

項 目 (課 題)	解決策例
治安の悪化	防犯対策（自主防災組織による被災地域の巡回）
津浪災害の実態	避難所運営や共同生活等に対応するマニュアルの整備
避難所の実態	地域の実情に沿った減災・防災訓練
みなし仮設（民間賃貸住宅）の実態	避難所、仮設、みなし仮設、在宅避難にこだわらず 被災者支援は、平等に
被災者間の差別行動	支援方法・内容は、必要度・緊急度により不平等・不公平
備蓄支援物資や緊急支援物資を 「指定避難所」以外に配布しない	防災教育マニュアルの作成と訓練・普及 （ボランティア活動の重要性）

- (2) 受援

項 目 (課 題)	解決策例
支援の格差	被災者間の軋轢を小さくする
受援の普及・広報の必要性	支援スタッフの育成と人材確保
受援の準備と心構え	「受援」の心構えの普及と訓練
受援ボランティア	被災地住民のボランティアの育成
「欲・甘え」の受援	自立意欲へ
感謝の気持ちの消失	自律の訓練

- (3) 支援のあり方

項 目 (課 題)	解決策例
一部被災者の依存心を強める支援	支援方法のマニュアル化
自立・自律心を摘む被災者支援	緊急度・必要度に応じた支援のマニュアル作成と訓練
受援体制の整備	災害に対応する機関の支援体制の構築
支援物資の実態	緊急支援物資として妥当かのルール化
支援団体の実態	にわかボランティア団体への対応
NGOの実態	NGO・NPOとの連携（調整窓口の設置）

(4) 支援物資

項 目 (課 題)	解決策例
保管場所、仕分け会場・仕分け方	支援物資の統一したマニュアルの作成(仕分け・配布・授受)
配布の仕方と方法・期間・程度	季節、サイズ、新品、ブランド品、中古品、在庫一掃品
配布対象者数と物資数の不一致	不平等・不公平の配布のルール化(緊急度・必要度による)

(5) 災害対応の役割分担

項 目 (課 題)	解決策例
行政	行政としてやらねばならない災害対応に専念
社会福祉協議会	被災現地の災害ボランティアセンターとの連携・支援
NPO・NGO	被災者支援の協働のマニュアル化
住民	住民自治(町内会等)の互助支援、訓練・マニュアル化

(6) 災害ボランティアの実態

(7) 被災程度と経済格差によるトラブル

(8) マスコミ報道と被災地・被災者の実態とのずれ

(9) 社協の災害対応の実態 - 社協業務と他団体との連携

(10) 災害対応拠点病院支援に対応する機関の支援体制の構築(支援団体の組織化)

(12) 避難所設置・運営マニュアルの作成と訓練・普及(避難所と在宅被災者との関係)

(13) 自主防災マニュアルの作成と訓練・普及(地域コミュニティの重要性)

(14) 行政等災害に対応する機関の支援体制の構築(退職者の組織化)

(15) 公務員の研修に「災害対応」の組み入れと訓練・在職中役割分担の固定

「無知ほど怖い」実態